



<p>第3学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学習内容を活用する文章問題や応用問題になると、自分の考えがうまく表現できなくなってしまう児童がいる。ア</li> <li>• かけ算やわり算といった計算技能の定着に習熟の差が見られる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 問題場面がイメージしやすくなるようにICTを活用し、問題場면을視覚的に整理することで問題解決につながるようにする。ア</li> <li>• 授業中の机間指導を充実させ、苦手意識をもっている児童に重点的に関わり、学習内容の定着を図る。また、朝学習の時間を活用し、基本的な計算技能の定着を図る。イ</li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>	
<p>第4学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既習事項を活用して問題を解くことに課題がある。ア</li> <li>• 授業で身に付けた四則計算の技能が、時間とともに忘れてしまう児童が見られ、定着に差がある。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元に関わりのある問題を授業の初めに解くなど、導入部分で既習事項の復習をすることを重視する。また、問題を解く際に既習のどの部分を活用しているかを指導で明確にする。ア</li> <li>• タブレット端末を利用したドリル問題に取り組み時間を設定し、問題を解く量を増やすことで計算技能の定着を図る。イ</li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>	
<p>第5学年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既習事項を活用し自分の考えを表現できる児童が一定数いるが、応用問題やテストなどになると立式できず、既習事項が活用できない児童がいる。ア</li> <li>• 作図、計算などの表現が丁寧でなかったり、定着していなかったりする児童が多い。ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分の考えを表現する場面では、1つの手段だけでなく、式と言葉を結び付けたり、式と図を結び付けたりするなど関連付けて考える場面を設ける。ア</li> <li>• 机間指導で理解が定着していない児童を確実に把握することで、朝学習等の時間に個別指導を行い、基礎基本の定着を図る。ア</li> </ul>	<p>通年</p> <p>通年</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算処理に時間がかかる児童が一定数いる。【イ】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の時間に既習の計算問題に取り組みさせることで、基本的な計算技能の定着を図る。【イ】</li> </ul>	通年 朝学習	
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の定着が不完全な児童が多く、既習内容を活用した問題や解法の説明に課題がある。【ア】</li> <li>計算処理に時間がかかる、丁寧に作図ができないなどの課題がある。【イ】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習内容の定着を図れるように、東京ベーシック・ドリル活用する。</li> <li>単元の初めに、関連する既習項目の復習を導入で行い、児童の思考へとつながるようにする。【ア】</li> <li>家庭学習での定着を図る。【イ】</li> <li>マス計算、東京ベーシック・ドリルの活用など朝学習などを活用し継続的に取り組む。【イ】</li> </ul>	通年 通年 通年 通年	

<p><b>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</b></p> <p>1年：ロイロノート等を使い自分の考えをまとめ、学級全体で共有できるようにし、多様な考えに気付けるようにする。【重点：協働】</p> <p>2年：ロイロノートを使い、それぞれの考えを交流する場面を意図的に設定する。また、ミライシードを活用することで基礎的な計算技能の習熟を図る。【重点：個別】</p> <p>3年：ロイロノートを使い、児童がそれぞれの考えを確認したり、質問したりする場面を意図的に設定する。【重点：協働】</p> <p>4年：タブレット端末の計算ドリルを活用し、自分が苦手とする単元の復習がいつでもできる環境を整える。【重点：個別】</p> <p>5年：自分の考えをもち、表現できるように解決の見通しをもたせる。考えの発表では、児童のノートを黒板に映すことで考えの相違点に気付かせたり、友達のと自分の考えを比較させたりすることで、全体での話し合い活動がどの児童にとっても主体的な活動になるようにする。【重点：協働】</p> <p>6年：自分の考えをもち、表現できるように解決の見通しをもたせる。考えの発表では、ロイロノートや iPad でノートに表した考えを黒板に映し、複数の考えや式などを比較しやすい場を設定する。【重点：協働】</p> <p>全学年：ロイロノートを活用して、考えを広げる機会を設ける。</p>	<p><b>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</b></p> <p>1年：学習のめあてを児童と共に考えたり、学習の振り返りをさせたりすることで、次時への意欲につながるようにする。学習の見通しを示すことで、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p>2年：自分の考えや分かったことなどの振り返りを書く時間を確保する。本時の学習の流れを提示し、児童が見通しをもって授業に参加できるようにする。</p> <p>3年：既習事項を確認することで、学習内容のつながりに目を向けさせるとともに、問題解決型の学習の後には、学習感想を書かせるようにする。</p> <p>4年：タブレット端末の計算ドリルを活用し、自分が苦手とする単元の復習ができる時間を設定する。</p> <p>5年：学習のまとめを、めあてに対して児童の言葉で振り返りを表現する。難しい場合も穴埋めなどにし、少しずつ書けるように促す。</p> <p>6年：学習問題から本時では何をめあてとするのか、児童自身が意図をもって取り組めるめあてを設定する。振り返りでは、めあてに対応して何が分かったのか、自分自身の言葉でまとめられるように繰り返し指導する。</p>
--	---

